

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 30 年 11 月 10 日（土）10:00~12:00
- 場所：Fukuoka Growth Next（福岡県福岡市）
- Pitch テーマ：福岡発 スタートアップ・エコシステムの発展のために
- 招へい者：別紙参照
- 出席者：平井国務大臣
住田知的財産戦略推進事務局長、石井企画官（科技）
寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 招へい者からの説明

- IT 系ベンチャーを中心に強いコミュニティが形成されている。
- 九州大学の先端技術を活かした大学発ベンチャーも成長途上で、同大学では起業部が設立され、学生の起業も出始めている。
- グローバル展開するソーシャルベンチャーが活躍をしている。
- 地元のファンドや中核企業、支援機関、行政が、熱心に活動し、起業家・経営者とスタートアップを盛り上げている。

3. 質疑応答・議論

以下の意見・提言があった。

- メディア発信で戦略的に注目度を上げつつ、若手を巻き込んで代替わりで継続するコミュニティづくりのコツ。
- 全国一律の制度でなく、都市国家的な地域にあった仕組みを作ることの必要性。
- IPO モデルでない「地産地消ファイナンス」（地域の VC や中核企業がエクイティでファイナンスし、エグジットは経営者買い戻しか M&A とするモデル 注：以前問題となった買戻し条項とは異なるスキーム）の可能性。クラウドファンディングや ICO などファンディングの多様化。
- ディープテック系企業の成長過程での大規模ファイナンスの難しさ、グローバルな戦いでの知財戦略の難しさ。

- 資金調達の全体的な状況は格段に改善されており、一定レベル以上の経営やビジネスモデルが確立されれば、調達できる環境にあること。
- 大企業との連携で、未だ意識の差が大きく事業が進まないケースが多いこと。しかし、危機を経験した企業においては、本気でチャレンジする人が出ていること。
- 日本では挑戦を称える、失敗を経験として評価する文化がないこと。リスクサイドとリターンを見せて起業やその他の選択肢が見えるようにすること。芸人の育成が変わったように、起業家や挑戦する人を育成する仕組みを広げるべきこと。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)

招へい者：

[視察先経営者]

牧田 恵里 株式会社 tsumug 代表取締役社長
石川 麻衣子 Kids Code Club 代表
岡本 良祐 メドメイン株式会社 事業開発担当ヴァイスプレジデント
村上 純志 株式会社サイノウ 代表取締役 CEO / NPO 法人 AIP 理事

[地元スタートアップ経営者]

安達 淳治 株式会社 Kyulux 代表取締役 CEO
佐々木久美子 株式会社グルーヴノーツ 代表取締役会長
最首 英裕 株式会社グルーヴノーツ 代表取締役社長
橋本 司 株式会社スカイディスク 代表取締役社長
橋本 正徳 株式会社ヌーラボ CEO
島井 尚輝 株式会社 Pear 代表取締役
田口 一成 株式会社ボーダレス・ジャパン代表取締役社長

[地元ベンチャーキャピタル、支援関係者]

坂本 剛 QB キャピタル合同会社代表社員
林 龍平 株式会社ドーガン・ベータ代表取締役パートナー
両角 将太 F Ventures LLP 有限責任事業組合代表
香月 稔 トーマツベンチャーサポート株式会社
中山 亮太郎 株式会社マクアケ 代表取締役社長
熊野 正樹 九州大学 学術研究・産学官連携本部
ベンチャー創出推進グループ 准教授